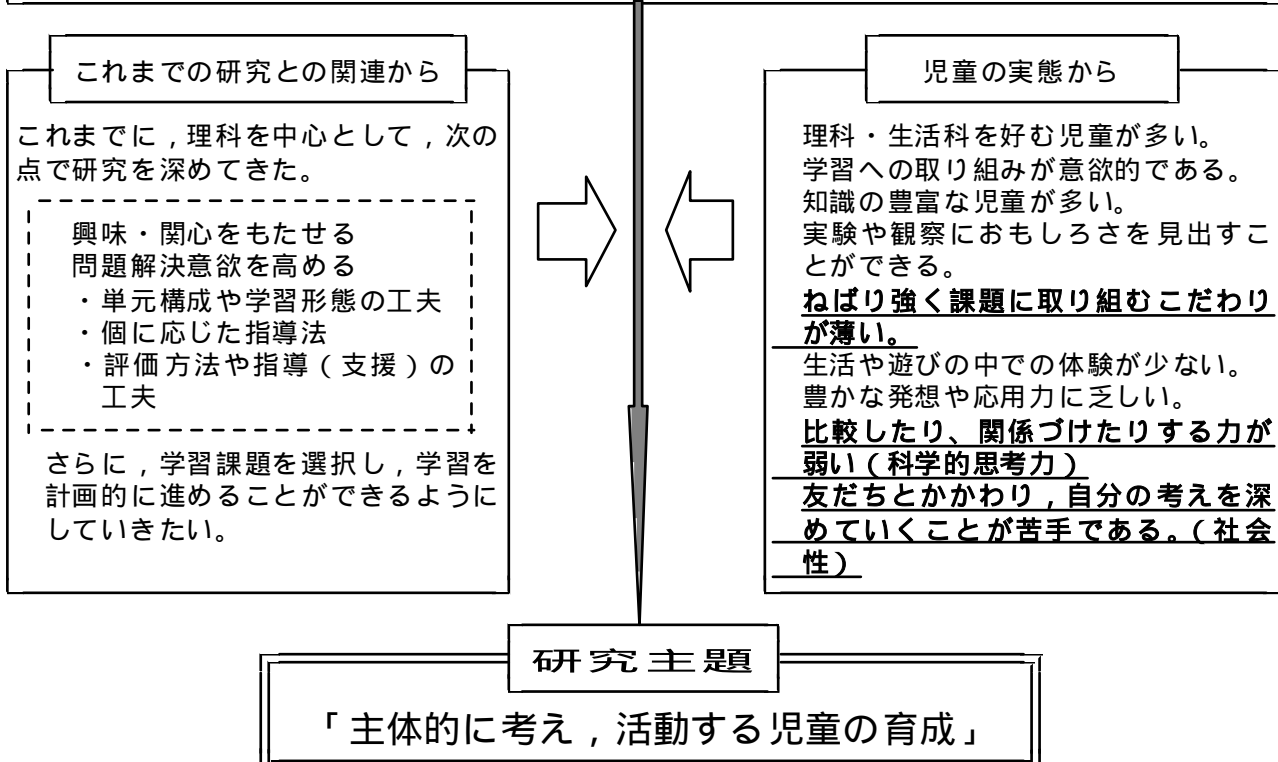
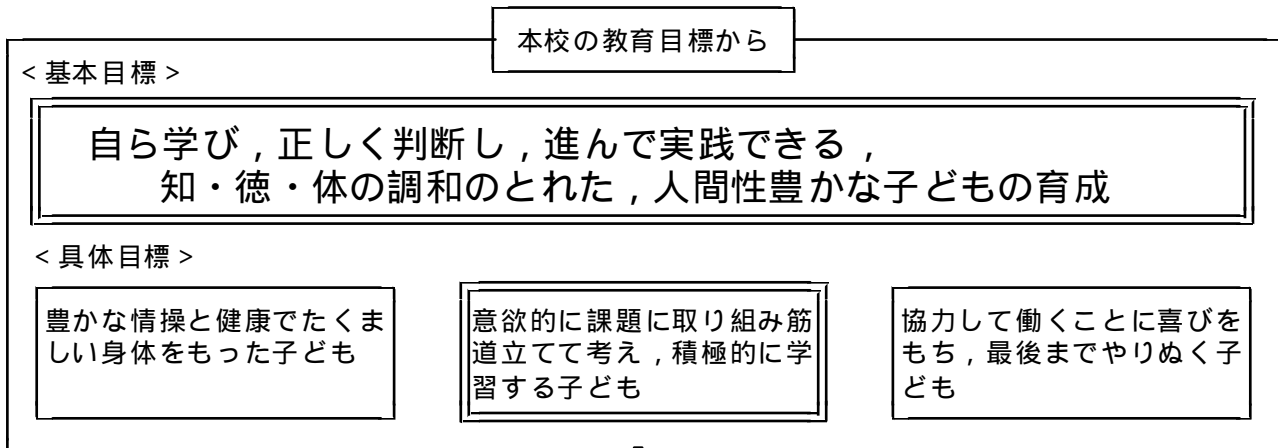
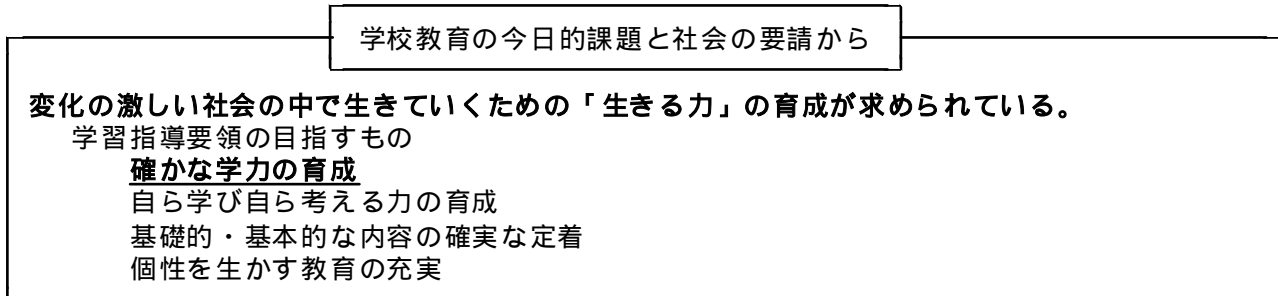


1. 研究主題

「主体的に考え、活動する児童の育成」

2. 主題設定の理由

研究主題は「今日的課題と社会の要請から」「学校教育目標から」「児童の実態とこれまでの研究から」の3点より以下のように設定した。



3 . 研究主題について

平成15年10月、中教審の発表した「当面の教育課程及び指導の充実・改善策」についての答申では、児童一人一人に「確かな学力」を身につけさせることは学校教育の喫緊の課題であるとされている。「確かな学力」とは「知識技能はもちろんのこと、これに加えて、学ぶ意欲や自分で課題を見つけ、自ら学び、主体的に判断し、行動し、よりよく問題解決する資質や能力等まで含めたもの」と幅広く規定されている。すなわち「確かな学力」とは「生きる力」そのものであるとあってよいだろう。

本校では、「個のよさを生かし、伸ばすための理科・生活科指導の在り方」を5年間継続研究したその成果として、理科や生活科を好む児童が増え、一人一人が学習に意欲的に取り組む姿が看取できるようになった。さらに、昨年度は、「主体的に考え、活動する児童の育成」を研究主題とし、「覚える」知識から自ら思考して「創る」知識へと知識観の変換を図りながら、児童一人一人の興味・関心を大切にしたい学習過程を工夫するなど、個に応じた指導・支援の在り方を一層追究してきた。しかし、科学的な思考力の育成や、他者とのかかわりによる児童一人一人の考え方の深化については未だ不十分さを感じる。

そこで、今年度は、昨年に引き続き「主体的に考え、活動する児童の育成」を研究主題とし、研究教科に理科と生活科を取り上げて、児童一人一人の主観を大切にしたい学習過程を工夫、個に応じた指導・支援の在り方をより一層追究していきたい。さらに、他者とのかかわりを重視した学びを通して、「確かな学力」の向上を図っていきたい。

4 . 研究教科

理科・生活科・特別支援教育

5 . 研究目標

児童一人一人が主体的に考え、活動し、「確かな学力」を身につけるための指導のあり方を明らかにし、児童の生きる力を育む。

6 . 研究反説

(1) 理科

児童一人一人の主観を大切に、他者とのかかわりを重視しつつ、「科学的な知」を創造する学習過程を工夫し、個に応じた指導・支援をしていけば、より主体的に考え、活動する児童が育つであろう。

(2) 生活科

児童一人一人の思い・願いを大切に、身近な人や社会、自然とふれあう学習過程を工夫すると共に、個に応じた指導・支援をしていけば、より主体的に考え、活動する児童が育つであろう。

(3) 特別支援教育

個の実態を把握し、個に応じた支援の仕方を工夫すれば自分から学習に取り組むことができるであろう。

通常学級において、個別の支援を必要とする子に対して学習しやすい環境を整えれば、自分から学習に取り組むことができるであろう。

7. 主体的に考え，活動する児童像

自分の課題（不思議に思ったことは何か，調べたいことは何か）がもてる。
問題解決のための見通しがもてる。
学習計画を立てることができる。
実験や観察したことから，自分なりに考えたり，友達の考えと，比較したりすることができる。
実験や観察したことをまとめたり，きまりを発見したりすることができる。
考察したことやわかったことを生活場面の中でも生かしたり，同じように考えたりすることができる。
自分でがんばったことや感想をまとめることができる。
友達のよいところを見つけることができる。
興味をもち，自ら進んで取り組もうとする。
自分なりに問題意識がもてる。
自分の思いや願いをもって，見たり，聞いたり，育てたり，作ったりする。
気付いたことなどを，言葉・絵・動作・劇などで自分なりに表現することができる。
身近な人々，社会及び自然と直接かかわる中で，自分を見つめ，自分のよさや可能性について気付くことができる。
友達の発表を見たり聞いたりして，自分との違いに気付くことができる。

8. 「子どもが創る科学的な知」について

「子どもが創る知」とは角屋重樹氏によれば次の通りである^{*1}。

創られた知・・・例えば「植物の成長には、日光、肥料などが関係していること」がこの学習における創られた知である。いわゆる先人が創りだした知のことである。

知の作り方に関するもの・・・創られた知を獲得するために「関係しない要因を固定し、関係する要因について比較対照すること。実験や観察の要因を制御し、比較対照することといえる。

「科学は人間が創造したものである。ゆえに出発点は主観的なものであり、実証性・再現性が検討された後、客観的で他者と共有できるものへと高まっていくものである。」

このような営みにより子どもは科学的な知を創ることのできると考える。子ども達の主観（素朴概念）を生かし、生活経験と関連させながら考えを深めていくことが必要である。

人とのかかわりによる知・・・同学年同士あるいはエキスパートなどの異年齢とのかかわりにより知を獲得していくこと。

問題を解決していく過程で友達と協力したり切磋琢磨したりして共に学ぶよさを実感することが、すなわち社会性を培うことである。

奈須正裕氏によれば「子どもが、というより人が切実な追求の要求に駆られ、自ら進んで学ぶのは、ものごとがうまく進まない時や事態が当初の予測に反した時である。「したい」と思い、その願いの実現に向けて取り組んだ活動が、その途上において障害にぶつかりスムーズに進まなくなった時、当人にとって切実な問題が発生するのであり、その解決をめざして主体的でねばり強い追究が行われる。」^{*2}

このような問題場면을喚起し、それを乗り越えていくためには他教科での学習や社会へのかかわりを広げたり、自分とは違う他者の考え方のよさを取り入れたりして、自分の考えを深めていくことが重要になるだろう。

*1 角屋重樹編『これからの理科 研究授業 小学校編』明治図書，2003。

*2 北海道教育大学付属札幌小学校『21世紀型カリキュラムを求めて』

9 . 研究内容について

一人一人の意欲を高め、主体的に考え活動するための学習過程の工夫
 児童の興味・関心を生かし、学習意欲を高めるような指導計画
 個に応じた指導（発展的な学習，補充的な学習など）

指導技術の改善工夫（発問、教材、教具の工夫等）

指導形態の工夫（T・T，少人数指導など）

担任＋他教員（クラスT・T）

担任＋担任（学年合同）

担任＋担任＋他教員

担任＋担任＋社会人

担任

担任＋社会人

指導者のパターン（指導者側からみたモデル）の見直し

学習過程の柔軟な設定と1単位時間の弾力的運用

学習過程における子どもの活動と支援の見直し

- ・ 個への支援の場と内容・視点等の明確化
- ・ 支援の方法の見直し
- ・ 個性を發揮できる多様な解決を促す支援の方法
- ・ 個のよさを認め合い，伸ばし，高め合う話し合い活動の支援
- ・ 個のよさを生かし，広げる支援

自己評価

- ・ 単元を通した変容を把握できるように，一覧表にした自己評価表の工夫

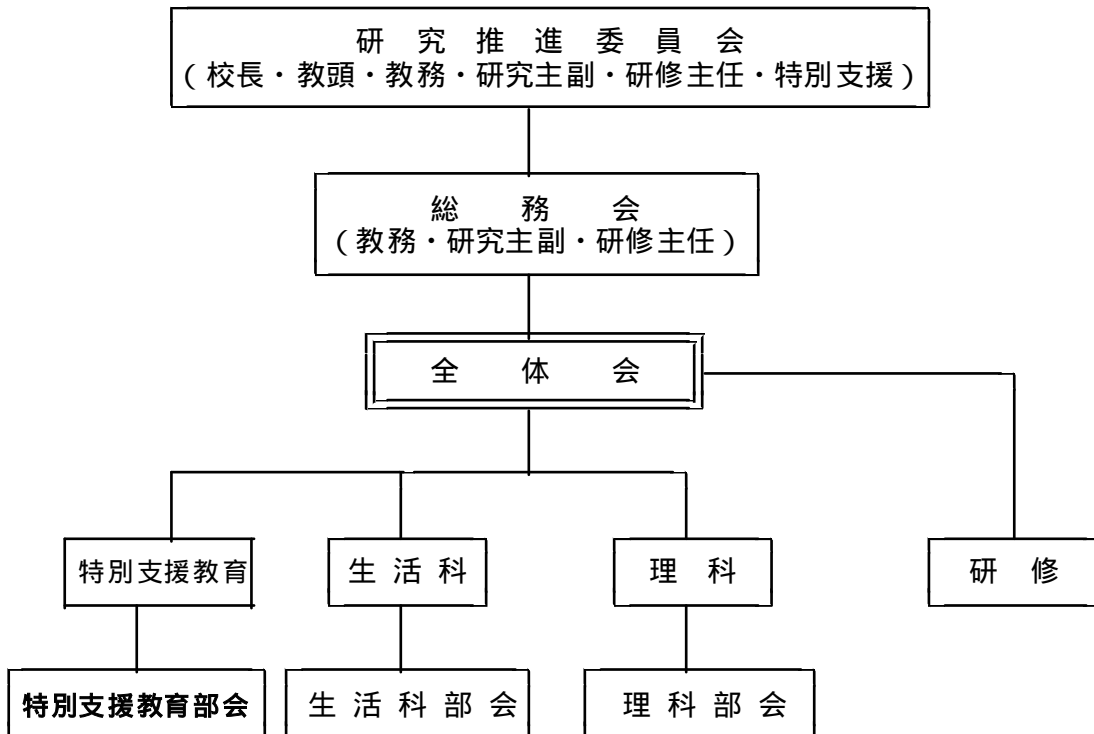
相互評価

- ・ 友達の励ましによって学習の成就感を深め，次時の学習への意欲を高める
- ・ 友達の評価を行うことを通して自らの学習を振り返る

10 . 研究の方法

本年度は、特別支援教育コーディネーターを中心に、個々の児童の障害や状況に応じた指導の在り方，特殊学級における指導が通常学級で生かされるような連携の在り方，特別支援教育充実に向けた校内の支援体制づくりの在り方などを研修するため，研究組織の中に特別支援教育部会を明確に位置づけする。

(1) 研究組織



1，2年生担任は生活科部会に所属し，3年生以上の担任は理科部会に所属する。

特殊学級，言語学級の職員は特別支援教育部会に所属する。

(2) 研究活動について

原則として，毎週木曜日を研修日とし，全体研修並びに，各部会の研究を進める。

教師の力量を高めるために原則として1学級1回，教科（生活科・理科）及び特別支援教育の授業研究をする。

研究の実践として，1学期に1回，2学期に1回の計2回（講師を招聘）の計画で授業研究を行う。また，授業研究は，原則として次の日程で行う。

3校時	生活科	理科（中学年）	特別支援教育
4校時		理科（高学年）	

研究の結果を「研究のまとめ」としてまとめる。（本年度は12月をめやすに）

日々の実践で使用した資料やワークシートなどは，学年のファイルに保存し，次年度に役立てるようにする。

1.1 「総合的な学習の時間」の研修について

「総合的な学習の時間」については，年間指導計画の追試を行い，日々の実践を通しての問題点及び課題を話し合い，より深めていきたい。中央教育審議会答申における「総合的な学習の時間」の成果と課題は次の通りである。

成果

- ・創意工夫した授業計画の組み立ての機会が増加し、児童の自ら調べ・まとめ・発表する力、思考力・判断力・表現力、学び方や、近年とみにその低下が指摘されている学習意欲の向上などにつながった。

課題

- ・学校において具体的な「目標」や「内容」を明確に設定せずに活動を実施している例
- ・必要な力が児童に身につくかどうかの検証・評価が十分行われていない実態
- ・教科との関連に十分配慮していない実態
- ・教科の時間への転用
- ・児童の主体性や興味・関心を重視するあまり、教員が児童に対して必要かつ適切な指導を実施していない実態

以上の事柄をふまえて以下のような点について取り組んでいきたい。

各教科等における知識や技能等の関連

- ・学習指導の計画段階の工夫
- ・直接児童の学習場面における関連づけ

目標及び内容の設定の工夫

全体計画の作成

指導上の配慮事項

* 詳しい内容については，研修担当より提案予定。